

「生徒同士のコミュニケーションを通して、 意欲的・自主的に学ぶ態度や力」の育成

指導主事 平川 真由美

研究協力員 熊本県立鹿本高等学校 教諭 藤本 絢也

1 研究主題について

熊本県立鹿本高等学校の学校教育目標は、「心身を鍛え、知性を磨き、徳性を涵養して社会に役立つ人材を育成する」である。このことから、本研究における「これからの社会に求められる資質・能力」を協力員との協議のもとで「生徒同士のコミュニケーションを通して、意欲的・自主的に学ぶ態度や力」と設定した。

2 研究の視点

(1) 視点1「学びを引き出す」について

計画を構想する段階において、取り上げる古典教材を用いて、筆者の視点や価値観などに着目することでメタ認知を高めることができると考えた。そこで、メタ認知や批判的思考力を高める「教材を貫く言語活動」を設定し、教材を貫いて課題意識を継続させることとした。

また、毎時間目標を焦点化して示すことにより、何について学ぶのかを明確にし、生徒の「学びを引き出す」手立てとした。生徒が自ら課題を発見・解決していく学習過程の中で、主体的・対話的で深い学びが充実することを目指した。

本教材においては以下の取組を行う。

- ① 生徒たちが自分で内容に踏み込んだ問いを立て、ペアやグループでの問いの検討を通して、自分と異なる視点に気づいたり、重要なポイントを見抜いたりできるようにする。

(2) 視点2「学びを振り返る」について

授業場面において、生徒が考えを持つことは、その後の協議を深めるだけでなく、協議後に考えの変

容を振り返ることにおいても大変重要である。変容を振り返ることがメタ認知をさらに促すこととなり、他の学習に転移できる汎用的能力を通して国語の力が高められる。そこで、本研究では生徒が考えを持ったり、他者と協働的に学んだりする場において「思考ツール」としてプリントを活用した。思考過程の可視化と振り返りを行い、生徒の「学びを振り返る」手立てとした。

本教材においては以下の取組を行う。

- ② 問いを立てる活動を通して、本文の内容が理解できるようにする。
- ③ 自分が最初に立てた問いと、ペア、グループで検討した問題、他の班の問題（発表）と様々に比較検討することで、自分で気づかなかった問い方や問題にする箇所について考え、多角的な読みや視点に気づき、自分の考えの変容を実感できるようにする。

(3) 視点3「学びを支える」について

生徒の考えが広がったり、深まったりするためには、協議において多様な意見が出され、それらの意見が収束に向かうような議論が行われることが望ましい。そこで、話し合うための基盤をつくり協議の方法を明確にすることで、グループ協議などの言語活動が行われやすくするようにした。

本教材においては以下の取組を行う。

- ④ 内容理解のために、語句の意味・文法事項等を理解し、正確な口語訳をする。
- ⑤ 生徒が自分の考えを持つ、他者の考えを知る、他者の意見を聞いたうえで自分の意見をまとめるという手順で考えを深めていけるよう、学習過程を明示する。

3 研究の実際

検証5 鹿本高等学校第2学年

教材名 随筆2「枕の草子 木の花は」

(1) 本教材の授業設計

① つけたい力と生徒の実態

対象は2年文系クラス、生徒は落ち着いた学習態度で、授業において発問や課題には真摯に向き合う。個人の積極的な発言は少ないが、ペアやグループでの話し合いにおいては様々な意見が出る。しかし、「生徒間のコミュニケーションを通して学ぶ力」、「ポイントを見抜く力」が身に付いていると実感している生徒は「まあそう思う」まで含めてともに50%程度にとどまっている。

また、学校全体におけるつけたい力の中に「自ら意欲的・自主的に学ぶ態度や力」「周囲の人々にすすんで働きかける力」があることから、国語におけるつけたい力は「生徒同士のコミュニケーションを通して、意欲的・自主的に学ぶ態度や力」である。

本教材では、学習指導要領高等学校国語古典Bの内容(1)の指導事項ウ、オを中心に、目標を「本文の内容を正確に読み取り、ポイントを意識して読みを深めることで、作者の視点や感性、文学的素養を理解する。」と設定し、ペアワークを中心に学習を進めることにした。(言語活動例ウ、エによる)

② 学習課題の設定

①で述べた目標及び生徒の実態に基づき「問いを立てることとその検討を通して、本文のポイントとなる内容を理解し、読みを深める」という題材全体を通した学習課題を設定した。この課題設定の意図は、受験に対応する力を育てつつ、それにとどまらず、時代が求めるメタ認知及び社会で役に立つポイントを見抜く力を育てることである。

③ 教材観

情報に溢れた現代社会の中で、古来我が国で大切にされてきた自然の美や四季の移り変わりなどをゆっくりと味わう時間も機会も減少してきている。本教材では、指導事項ウ「古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの感じ方、考え方を豊かにすること。」を目標の一つ

とする。

随筆『枕草子』には、作者清少納言の独特の感性が見事な筆致で描かれている。中でも今回の「木の花は」は、その自然の花々に対する感性とともに、作者の論理性、文学的素養を読み取ることができ、現代に生きる生徒にも訴えかけるものがあると考えられる。読みを深めることで、古より育まれてきた日本人の「自然」に対する感性について考えさせたい。また、「橘」に関する「ほととぎすのよすが」、「梨」や「桐」の記述に現れる中国文学との関わりについて学び、筆者のように先行文学を受け継ぐことでより深く豊かな世界の広がりを感じられることを知る。

これらのことから、本教材において学習を行うことは、古典Bの目標にある「ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深める」という資質・能力の獲得につながり、鹿本高等学校の学校教育目標の「心身を鍛え、知性を磨き、徳性を涵養して社会に役立つ人材を育成する」及び目指す生徒像の「三綱領『自主自立・質実剛健・師弟同行』のもと、知徳体の調和のとれた人間」の実現につながるものであると捉える。

④ 指導観と研究の視点

語句の意味や文法事項及び内容を理解した上で、本文を用いた問いを立てることを課題として設定し、他者の視点を含めたメタ認知を育成する。

完璧な問いを立てることを目的とするのではなく、内容や主題に踏み込んだ問いを立て、その意図を深め、共有する。なぜそこが大事なのかを考えることで、実生活で役に立つ文章における「ポイントを見抜く力」につなげる。

各自で問いを立てた後に、まずはペアで相互の問いに答え、解答解説を行い、問題に関する感想やアドバイスを話し合う場を設定する。古文に対する積極性を「自分の考えを持ち(価値観の形成)、ことばで的確に伝える力」まで高める。

3～4名の班でそれぞれの問いを検討し練り上げ、意図をクラスで発表する。個→ペア→グループ→個という過程を踏むことで、「自分の気づかなかった視点に気づき自分の考えが変容した、より良いものになった。」という経験をする。

⑤ 本教材の指導目標

教材における目標	本文の内容を正確に読み取り，作者の視点や感性，文学的素養を理解する。また問いを立てその検討を通して，本文のポイントとなる内容を理解し，読みを深める。
国語への関心・意欲・態度	・本文の内容理解，問いを立てる，他の生徒の問いへの回答，相互評価及び検討に積極的に取り組もうとしている。
読む能力	・本文のポイントとなる箇所を考察した上で問いができています。 ・他の生徒の問いに答えることで，本文理解へとつなげている。
話す・聞く能力	・作成した問題の相互解答をして，アドバイスをしたり，聞いたりする中で本文のポイントに気づく。
言語についての知識・理解・技能	・語句の意味，文法事項を正確に把握した上で口語訳ができています。

⑥ 教材指導計画

教材を貫く問い：自分たちで内容に関する問いを立てることで、古典の読みを深めよう。

次	時	学習活動
一	3	1 本文の内容を理解する。 (1) 作者・作品について確認する。 (2) 音読する。 (3) 重要語句・文法事項に留意しながら口語訳する。 (4) 作者の視点・文学的素養等について理解する。
二	2	2 各自で問いを立て解答解説を作成する。
三	2 本時 1時	3 他の生徒の作成した問題と自分の問題を比較する。 (1) ペアで問題を交換し問題を解く。 (2) 解答解説を見て答え合わせをする。 (3) 互いに問題の感想・アドバイスを伝える。 (4) 班を作り，重要な問題をまとめていく。 (5) 問題作成をする過程で，重要だと思ったポイントとその理由についても話し合う。 (6) 各班で発表をし，互いに発表を聞く。

(2) 指導の実際

過程	学 習 活 動・指導上の留意点
導入 3分	1 本時の目標・流れを確認する。 ○作成した問いの相互解答を通して， 本文のポイントに気づくという目標を伝える。 ○ペアを作らせる。 【視点3】学びを支える ⑤本時の目標・狙いを認識した上で，本時の流れを理解し取り組ませる。
展開 42分 (10) (10) (22)	[学習課題]内容に踏み込んだポイントとなる問いはどのようなものか。 2 ペアになって互いの問題を解いた後，解答解説を受け取って自己採点を行う。 (1) 何を問われているかが明確か，問いにした箇所が適切か，等を考えながら解く。 ○机間指導し，全体に伝えるべき問題や解答の例があれば発表させる。  3 相互の問題について出題の意図・感想・アドバイスを述べる。 (1) 出題者の意図→回答者の感想・アドバイスの順に相互に伝え合う。 (2) 感想アドバイスをメモをとりながら聞く。 ○机間巡視し，出題の意図が上手く伝わらなかった例があれば発表させたり，紹介したりする。 ○問題が解けないのは，自分の理解が足りないのか，問題の意図が伝わっていないのかを考えるようアドバイスする。 ○問題の良い点は必ず伝え合う。



【視点2】学びを振り返る

- ③自分と同じ箇所、違う箇所の設問とその意図を相互に確認し、より内容に踏み込んだ問いを考えさせる。

【言語活動】(設定の意図)

立てた問いを比較・検討させることで、生徒の思考力・表現力・ポイントを見抜く力を育てる。

評価：読む能力①②(ワークシート・観察)

B基準 相互の問題を検討し、内容に踏み込んだ問題が作成されているかを考察している。

A基準

B基準に加え、内容に踏み込んだ問題になるよう、適切なアドバイスができています。

〈B基準に達していない生徒への手立て〉

ノートを見直すように促す。机間巡視をしながら、個別にアドバイスする。

4 班で相互の問題を見せ合い、検討し、各班の問題を作成する。

○4～5人の班を作る。

○共通して問題にしている箇所があればポイントである可能性が高いことを伝える。



【視点1】学びを引き出す

- ①多くの設問に触れ、多角的な視点を考えることで、ポイントを見抜く読みを深める。



整理
5分

5 本時の学習をまとめる。

6 次時の予告。各班代表は出題の意図を発表の準備をさせる。

【視点3】学びを支える

- ⑤本時の目標の達成度を意識させ、次時の流れと狙いを理解させる。



※●の中の番号は1ページ目の研究の視点と対応している。

4 検証結果と考察

下記は検証前と検証後にとったアンケートの平均点をレーダーグラフにしたものである。

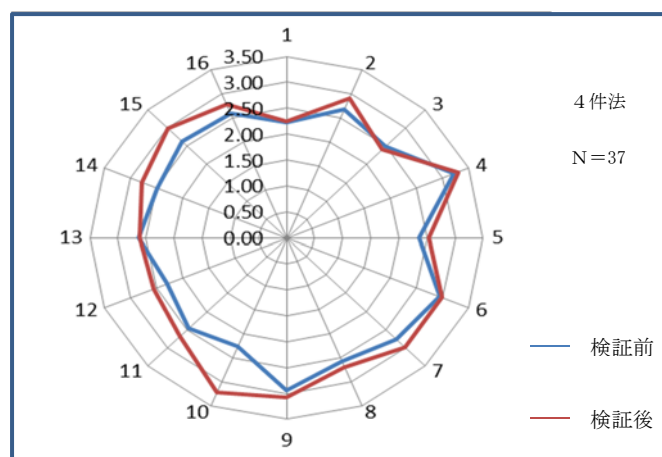


図1 アンケート全項目レーダーグラフ

そう思う 4 まあまあそう思う 3
あまりそう思わない 2 そう思わない 1

グラフを見ると、検証後（赤い線）の方が全体的にやや円が大きくなっていることがわかる。実際アンケート16項目の中で14項目の平均点が上がっている。

また、全体的に「そう思う」の平均が11.5%から18.6%へ増加し、「そう思わない」の平均は9.1%から4.3%へ減少している。以上のような点から、本教材での取り組みが一定の効果を上げたことが分かる。

次に詳細を見てみると、今回のアンケート結果で特に効果が顕著なのが、2, 5, 7, 8, 10, 11, 12, 14, 15, 16の項目である。これらの項目を中心に、分析していくことにする。

表1 「つきたい力」関連項目

番号	質問	事前	事後
7	自分は、古典の授業の中で、他人の意見を聞いて、よいところを取り入れたり、改善点を指摘したりしている。	2.76	2.97
10	古典の授業の中で、グループ内で課題を考えたり、解決したりする方法を工夫して取り組むことがある。	2.27	3.22
14	自分は、古典の授業を通して、「クラスの仲間とのコミュニケーションを通して、意欲的・自主的に学ぶ態度や力」が高まっていると思う。	2.49	2.78

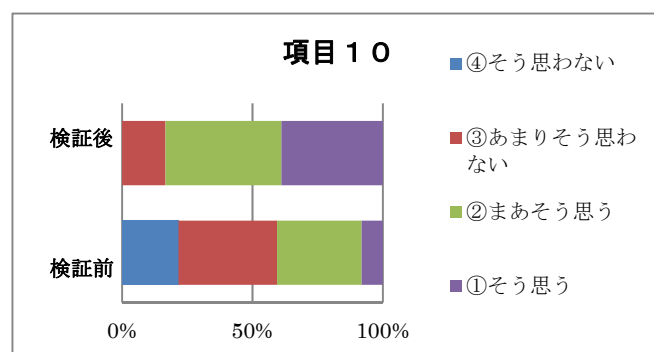


図2 項目10 回答の棒グラフ

χ^2 検定 0.00029 で差は有効である

つきたい力「生徒同士のコミュニケーションを通して、意欲的・自主的に学ぶ態度や力」に関連するのは、表1、図2の項目であると考えられる。これらの結果より、つきたい力「生徒同士のコミュニケーションを通して、意欲的・自主的に学ぶ態度や力」は十分に身についたと考えられる。

特に項目10については、表3に見られるように予想以上に効果が大きかった。肯定的回答は40%から83%に増加した。最初に自分で問いを立て、ペアになって話を進める中で、様々な気づきや工夫が生まれたようである。研究の視点1が効果を上げている。

次に、指導観のところで述べた「メタ認知を育成する」「ポイントを見抜く力につなげる」「古典に対する積極的な自分の考えを持ち」という観点から検証結果を見てみると、

表2 指導観に関する項目

番号	質問	事前	事後
2	自分は古典の授業の中で、これまでの学習や経験を活かして自分の考えを持つことができている。	2.68	2.92
8	自分は（古典の登場人物の考え方）などを、自分の考えを持つための参考にしている。	2.57	2.69
11	自分は、新しい古典の問題や課題に出会ったときに、それを解いたり、解決したりしてみたいと思う。	2.46	2.67
15	自分は、古典の授業を通して、「重要なポイントを見抜く力」が高まっていると思う。	2.62	2.97

表2の質問番号8より、「メタ認知」的視点が育ってきているのが分かる。同じく質問番号2, 11より「古典に対する積極的な自分の考えを持ち」始めている生徒が増えていることも分かる。俯瞰的な視点を持ち、問いを立ててみる。それを支持的風土の中で、いろいろと考え合せる中で、様々な視点でものを考える力や古典を学ぶことへの喜びが生まれたようである。問題を自分たちで検討・作成するという問いと研究の視点2「学びを振り返る」及び研究の視点3「学びを支える」がうまく機能している。「問いを自分たちで立ててみる」という言語活動は、時間的にもいつもできるわけではなく、また学習のあり方としても、常にこの形式では弊害が出てくるであろうが、1年に一度、または学期に一度程度実施するには、大変有効であると考えられる。前述したように現段階では受験対応の意味合いがあるが、生徒に学ぶ意欲やメタ認知が身につく、作品や考查問題等に対しても俯瞰的な視点を持てるようになることが大きい。生徒に求められる学力観が変化しても、それに気づき対応できる力になる。

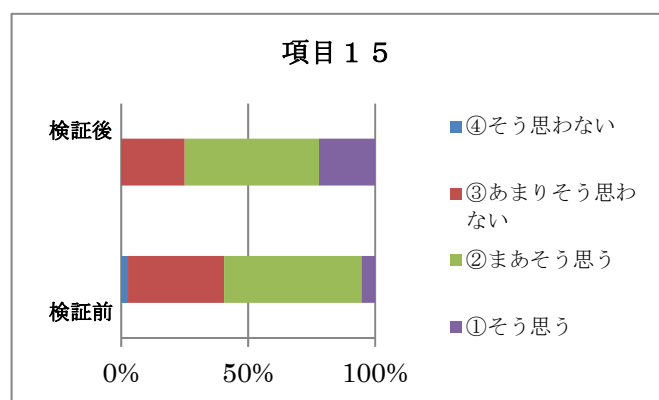


図3 項目15 回答の棒グラフ

χ^2 検定 0.00146 で差は有効である

指導観にあげた項目の中で、最も効果があつたのが項目15「重要なポイントを見抜く力」が高まっているという項目である。表2から完全に差は有効であることがわかる。肯定的返答も50%から75%にまで伸びている。今回研究協力員が完璧な問題作成を目的とするのではなく、なぜそこが大事なのかを考えることで、実生活で役に立つ文章における「ポイントを見抜く力」をつけたいというねらいを検証授業において強く持っていたことが、この項目に反映されたと考えられる。生徒はやはり教師の思いを敏

感に感じ取っている。

ここまでは、ほぼ授業前に意図したことであつたが、この他にも結果が出ている。以下そのことについて考えてみると、1つ目は、表3から分かるように生徒が古典と「社会とのつながり」を強く意識するようになった点である。

表3 「社会とのつながり」関連項目

番号	質問	事前	事後
5	自分は、古典の授業で学んだことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うことがある。	2.35	2.53
12	自分は、古典の授業で何を学んだだけでなく、何を学んだか、何ができたようになったか振り返っている。	2.30	2.56
16	自分は、古典の授業は、なりたい未来の自分の姿に近づくために役立っていると思う。	2.59	2.78

これらは微増ではあるものの、いずれも「社会とのつながり」を生徒たちが意識する項目である。これらの項目の数値の変化は、1つには、研究協力員が「ポイントを見抜く力は社会でも大切だ」と授業時に意識づけした影響が考えられる。もう1つは、教材が日本人の感性に訴えるものであつたため、友人たちと問いを考えることを通して教材理解が深まり、身のまわりの自然などに以前より目を向けるようになったようだ。検証後のインタビューでもそう語る生徒がいた。自然への意識の変化を通して、古より続く、そして今に生きる日本人の感性というものを意識するようになった生徒もいた。

この研究をするにあたり、教材と手法がなじむのかという不安があつたのだが、今回の場合は生徒の意識の高さもあり、教材と問いの相乗効果で、生徒が筆者や日本人の感性や価値観を感じ、自らも野の花に目を向けるようになるという望ましい結果が出た。目の前の生徒がどのような取り組み方をするか、ある程度予測して言語活動を組み立てることの重要性を感じた。

「メタ認知」や「コミュニケーション能力」の育成及び「社会とのつながり」を意識した学習は、次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめでも重視されている。特に日本の大きな財産といえる古典文学をただ知識としてではなく、共感を持って理解し、自分の内在化した知恵として活用できるこ

とは、この変化の激しい社会においてより一層重みを増してくると考える。

今回の研究の中で、残った課題もある。以下、課題について述べる。

表 4 課題として残る項目

番号	質問	事前	事後
3	自分は、古典の課題を解決する時に、1つのやり方だけでなく、別のやり方がないか考えるようにしている。	2.49	2.42
9	古典の授業の中で、グループ内で課題を考えたり、解決したりする方法を考えることによって、自分の考えが広がったり深まったりしている。	2.95	3.08
13	自分は、難しい古典の課題を解決するときでも、最後まで粘り強く取り組んでいる。	2.62	2.61

項目3については、今回の教材では読みを深めるために1つの方法を指定し、ポイントをつかむことを強調したため、結果が出なかったと考えられる。

項目9と13についてはまとめて考察する。

仮説1) 問いを立てるという方法を指定し、グループで1つの問題に集約していくという方法をとったため、学びの深まりはあるが広がりが実感しにくかった可能性がある。この仮説が正しいかどうかは、項目9を「広がる」と「深まる」に分ければよいので、次年度以降高等学校においてはアンケート項目を分けることを検討したい。また、学びを広げる方法・学びの広がりを実感できる方法を他の教材で実施することも重要である。

仮説2) 研究協力員によると、検証授業におけるペアワークまでの活動が活発で、グループになって問題の意図を語り合い、1つの問題に集約する場面では、どの問題がいいか選んでいく作業という雰囲気になったようである。ただの比較検討では、自分の意見が採用されなかった場合、項目9、13の評価は落ちる。このような形での学習は初めてであったそうなので、回数を踏み、なぜこの問いがよいか、選ばれなかった問いとの共通点と相違点も含めて建設的な話合いの練習を繰り返し実施していくこともアクティブ・ラーニングにおける重要な支援の1つであると考えられる。

5 研究のまとめ

検証授業中の生徒たちは生き生きとしており、ペアワークの中でうろ覚えだったことに気付いたり、お互いの問題の意図などを質問し、自分の言葉で語り合ったりしていた。古典に対する学習意欲も増し、定期考査等の学習にも良い影響を及ぼしたそうである。以上のことから考えて、今回の取組は意義深いものであったと考えられる。

これらの学びを引き出したものは、①教材を学習し、②自分で問いを立て・解説を考え、③ペアワークやグループ学習で互いの考えを知り、自分の考えを振り返るという過程を踏み、研究協力員が「それぞれの問いの共通点に目を向けよう」という生徒の思考を一步前に進める言葉かけをしたことにある。

ペアワーク等の形をとると「対話的な学び」が生まれる。加えて、今回の研究では高校国語におけるアクティブ・ラーニングにおいて「主体的な学び」「深い学び」を引き出すためには、ある程度まとまった時間の集中した個人活動も必要なのではないかということ考えた。生徒の実態にあった時間・内容で良く、授業中でも家庭学習でも良いが、集中した個人活動を経て主体性も生まれ、その後ペアやグループ活動に移ることで、気づきや変容が起きる。今回の授業でも、まだ十分ではないかもしれないが、個人での問いを立てた後、ペアワークをしたことにより、ペアワークでの議論が活発になったことが議論の内容から分かった。

また、アクティブ・ラーニングにおいては、生徒の行動をよく見ることも欠かせない。授業者が興味・関心や活動、思考の動きを観察し、「生徒の考えを集約してまとめる」、あるいは「生徒の視野を広げる」、言葉かけをしながら「深い学び」「主体的な学び」に導いていく。今後このような活動が授業における教師のより重要な役目になってくると考える。

授業等におけるどのような生徒の活動・教師の指導や支援がより効果的なアクティブ・ラーニングにつながるのかを引き続き研究する予定である。

《引用・参考文献》

『高等学校学習指導要領解説国語編』

文部科学省（2010）

『次期学習指導要領改訂にむけた「審議のまとめ」』

平成28 年 8 月 1 日教育課程部会

教育課程企画特別部会

『たった一つを変えるだけ』

ダン・ロステイン ルース・サンタナ

藤原朝子訳

『子供は40000回質問する』

イアン・レズリー 須川綾子訳

アンケート項目一覧

	質 問
1	自分は、古典の授業を通して知ったこと、できるようになったことが、他の授業や普段の生活の中で活用できるのではないかと考えるようにしている。
2	自分は、古典の授業の中で、これまでの学習や経験を活かして自分の考えを持つことができている。
3	自分は、古典の課題を解決するときに、1つのやり方だけでなく、別のやり方がないかと考えるようにしている。
4	自分は、先生の話や、他の生徒の発表を聞いて、古典が前よりもおもしろいと思うようになった。
5	自分は、古典の授業で学んだことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うことがある。
6	自分は、難しい古典の問題に出会ったときに、必要があれば他の人の力も借りて解決しようとしている。
7	自分は、古典の授業の中で、他の人の意見を聞いて、よいところを取り入れたり、改善点を指摘したりしている。
8	自分は、古典の登場人物の考え方などを、自分の考えを持つために役立てている。
9	古典の授業の中で、先生や友達に質問されたりアドバイスされたりすることによって、自分の考えが広がったり深まったりしている。
10	古典の授業の中で、グループ内で課題を考えたり、解決したりする方法を工夫して取り組むことがある。
11	自分は、新しい古典の問題や課題に出会ったときに、それを解いたり、解決したりしてみたいと思う。
12	自分は、古典の授業で何をしかただけでなく、何を知ったか、何ができるようになったか振り返っている。
13	自分は、難しい古典の課題を解決するときでも、最後まで粘り強く取り組んでいる。
14	自分は、古典の授業を通して、「クラスの仲間とのコミュニケーションを通して、意欲的・自主的に学ぶ態度や力」が高まっていると思う。
15	自分は、古典の授業を通して、「重要なポイントを見抜く力」が高まっていると思う。
16	自分は、古典の授業は、なりたい未来の自分の姿に近づくために役立っていると思う。